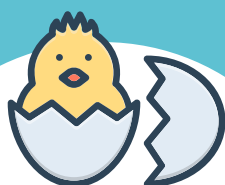




いろんな学習で役立つ！

探究サイクル スキルブック 3つのスキル

守口市教育センター



これからの人も
必見！

こんな人にオススメ！

- ☒ 「探究」って何？」と思っている
- ☒ 学び方がそもそもわからない
- ☒ もっと学びを広げ、深めたい！

もくじ

第0章 はじめに

- ・ 探究への入口

第1章 学び方スキル編

- ・ 学び方スキル
- ・ 学習課題・目標の設定

第2章 探究スキル編

- ・ 探究サイクル見方・考え方
- ・ 課題設定（問いの立て方）のコツ
- ・ 情報収集のコツ
- ・ 整理・分析で役立つ思考スキル
- ・ まとめ・表現のコツ

第3章 役立つスキル編

- ・ 言語スキル
- ・ 読書スキル
- ・ 情報活用能力（情活スキル、探究×ICT）
- ・ 協働スキル（形態選択スキル、対話スキル）



探究への入口 さあ、冒険のはじまりだ！

探究サイクル

課題設定（問いを立てる）

- ・ 先生が決める、自分で選択、自分が設定等

計画を立てる

- ・ 方法、時間、学習形態等

自己の生き方を
考えていく

サイクルは何度も繰り返す

まとめ・表現

- ・ 自分事としてアウトプット
- ・ 相手意識をもって（相手にとってわかりやすく）

情報収集

- ・ 教科書、資料集から（正確な情報をできるだけ多く）
- ・ 必要に応じて他者参照、本・インターネット、生成AI等
- ・ 観察、実験、見学、調査、探索、追体験等の生の情報も

整理・分析

- ・ 集めた情報を、まずは自分にとってわかりやすく整理・分析
- ・ 比較、分解、多面的・多角的等の視点で(思考)
- ・ シンキングツールも必要に応じて活用

※各ステップでは、学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力等)や見方・考え方を発揮させることで“深い活動”に！

各ステップでは
振り返り・評価

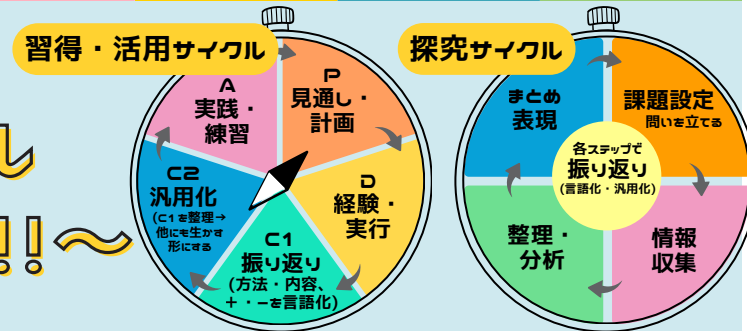
「探究」とは、課題設定（問い）から始まり、情報を集め、それらを整理・分析し、まとめ・表現する（伝える）までの一連の学習の流れのことです。上の図のように、サイクルは何度も繰り返し、どんどん深まっていき、最終的に自己の生き方も考えていくとても意義の深い活動です。教科の学習の中でも自由なテーマの中の学習でも使えます。次のページからは各ステップのやり方やコツ、ヒントがたくさんのおいています。全て覚えて使いこなそうとするのではなく、冒険（探究）の途中で困った時や迷った時、もっと広げたり深めたりしたいと思った時などに確認する地図やコンパスとしていつでも使えるよう近くに置いておきましょう。あなたにとって役立つツールとなることでしょう。

さあ、冒険（探究）の入口はもう目の前まで来ています！準備はいいですか？





自己成長するための学び方スキル ～“学び”の冒険の主人公はアナタ!!～



「学び方」が身に付けば、一生モノ！ここでは学び方のスキル(視点やヒント)を紹介します。実際に授業・家庭学習(冒険)をする中で色々としながら、最終的には自分に合う学び方を見つけていきましょう。学びの冒険の主人公はアナタです！めざせ伝説の学習者！！

☆学び方スキルは一人一人合うものが違います。また、課題のレベルや状況によっても変わるので、自分で判断し、カスタマイズさせて使い分けることが大切です。

思考を深めるスキル

自己
他者



習得・活用・探究サイクルで思考を深める視点や考え方を持つことで、知識が確かなものになったり、視野が広がったり、理解が深まったりします。

【例】情報活用能力も発揮しながら情報収集する、教科等で働かせた見方・考え方(比較、分解⇔統合、多面的・多角的、五感、分類、関連付け、構造化等)で整理・分析する(必要に応じてシンキングツールも活用)、自分の考えを持つ(本質的、クリティカルに評価)、学びを誰かに説明する・教える…等

主体的に学習するスキル

自己



自分事として粘り強く取り組む中で、計画や自分の気持ち等をその場の状況に応じて調整することで、学びが習慣化し、学習効果も上がったりします。

【例】目標(好きな事、やるべき事)を持つ、計画(時間・方法・内容等)を立てる、毎日行えるレベルで行い習慣化する(いきなり難易度を上げすぎない)、モチベーションの上げ方を知る(まず行動→やる気は後から)、集中する時間帯や方法でやる、リラックスの方法を知りうまく休む(睡眠)、緩急をつける、失敗⇔学びと認識し次に繋げる…等

他者と協働するスキル

他者



他者との協働、対話等により、学びが広がったり継続しやすくなったり、共通理解が見出せたり解決につながったり新たなものを創造できたりします。

【例】話し合う(言語能力、コミュニケーション能力を発揮)、傾聴・敬意の姿勢を持つ、議論する、評価し合う、はげまし合う、アドバイスし合う、お互いの得意を生かして一緒に作成する、情報を協力して集める、困ったときに助け合う、多様な意見を合意に導く(合意形成)、新たな価値を見出す…等

3つのスキルを使ってみて、それらが発揮できたかを振り返ったり自己評価したりしながら学習し、少しずつスキルアップさせていきましょう。うまくいったこと・いかなかったことを3つのスキルに整理して分析することで、成長につながっていきます。

初心者
習得・定着



失敗は次につながるための「学び」!

一人前!
わかる・獲得



昨日の自分より成長

熟達者
使える・感得



伝説の学習者へ!!
人生は続く!

学び方スキルを知っている

学び方スキルを
どれか使ってみる

学び方スキルを一通り
使ってみる

学び方スキルを
バランスよく使ってみる

どんな時にどんな
学び方スキルを
使えばよいか
なんとなく
わかってくる

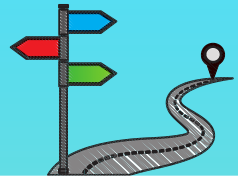
振り返り等から
自分に合う
学び方が
わかってくる

手引きがなくても
学び方スキルを
発揮しながら
学習できる

学び方スキルを
それぞれ説明でき、
人にも教える
ことができる

学び方スキルを
状況に応じて
バランスよく
使える

感覚的に自分
なりの学び方
スキルを
発揮できる
「生き方」も豊かに!



学習課題・目標を適切に設定しよう!

～自分の成長のために、どこをめざす?～

学習の初めに設定することが多い「学習課題・目標」…自分がどこに向かって頑張ろうとするのかをどう設定するのかによって、自分の成長度合い（結果）も大きく変わってきます。簡単すぎても難しすぎても△…今の自分にとって適切な「チャレンジゾーン」を見極め、設定しましょう。自分の成長のために、あなたはどこをめざしますか?

『チャレンジゾーン』

コンフォートゾーンを一步ぬけ出し、新しい知識やスキル等を習得するための挑戦ができる領域のことです。適度なプレッシャーや困難に直面しながらも、成長につながる経験を積める領域です。しっかりと目標を立てて、チャレンジする中で試行錯誤したり協力したりして乗り越える経験（プロセス）では、失敗しても成功しても、あなたにとって全て重要な「学び」です!

【高チャレンジゾーン】

ストレス負荷は高めで高成長が期待できます。

【低チャレンジゾーン】

ストレス負荷、成長率は低いですが、伸びています。
※高・低どちらがよいというわけではなく、今の自分の状況に合わせて適切に設定をすることが大切です。
※適切な休息も取り入れることで、次回チャレンジするための活力もチャージされます。

困惑 ゾーン
(ストレス・疲労感が過多)

高



チャレンジ ゾーン
(脳・身体フル回転)

低



難しすぎ
無理しすぎ

ちょっと頑張ったら達成できるかも

新しいチャレンジをしてみよう!

誰かと一緒なら解決できそう!
がんばれそう!

簡単すぎ
ヒマ

コンフォート ゾーン
(安心領域)





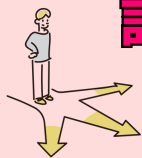
探究サイクルで働かせる『見方・考え方』

～より深い学びへ到達するための捉え方・思考のヒント～

ステップ	働かせる主な『見方・考え方』	具体例
① 課題設定	・ 疑問や関心を見だし、探究したい問いを立てる（問題発見・課題設定） ・ 課題の背景や重要性を考え、探究する価値を判断する（分析・判断） ・ 探究の全体像を捉え、計画を立てる（見通し・計画）	理科：「なぜ冷たいコップの周りには水滴がつくの？」など身近な現象への疑問から問いを立てる（探究テーマを決める） 社会：地域の課題について、自分たちの探究が地域にとってどのような意味をもつか話し合う 全教科：探究の全体像を捉え、探究活動にかける時間や場所、役割分担等を決める。
② 情報収集	・ 課題解決に必要な情報や資料の種類を考える（情報特定） ・ 可能な限り様々な方法で情報を集める（情報収集・調査） ・ 信頼できる情報源を選んだり、情報の出どころ等を確認したりする（情報源選択・出典） ・ 集めた情報が信頼できるか、偏りがないかを判断する（情報評価・批判的思考・ファクトチェック） ・ 必要な情報を正確に読み取り、記録し、整理しながら集める（情報読解・記録）	算数・数学：課題解決に必要な数値を教科書や資料から抜き出す 生活・総合：地域の店や人に話を聞いたり質問したりする（インタビュー、アンケート等） 社会：図書館やインターネットで地域の統計データや文献を調べる 理科：天気と気温の変化を観察し記録し、気象庁の過去のデータも収集する 外国語：外国文化についてインターネットの記事や動画等で情報を集める
③ 整理・分析	・ 図や表、グラフなどを用いて視覚的に整理する（視覚化） ・ 情報の中から共通点や相違点、関係性を見出す（比較・関連付け） ・ 根拠をもとに情報を分析し、意味や傾向を読み取る（分析・解釈） ・ 批判的な視点で情報を吟味し、多面的・多角的に検討する（批判的思考・多面的多角的） ・ 論理的に思考し、仮説を立てたり、検証したり、結論の方向性を見出したりする（論理的思考・推論・判断） ・ 集めた情報を、わかりやすく分類・整理する（分類・整理・要約）	理科・数学：データをグラフ化し傾向を読む 国語：複数資料を比較し筆者の主張を分析する 社会：多面的・多角的に分類して似ているところや違っているところを見出す 家庭科：集めたレシピを栄養素ごとに分類し、比較する 総合：アンケート結果を表やグラフで整理し、特徴を見取る
④ まとめ・表現	・ 最も伝えたいこと（主題）を明確にして表現する（主題設定） ・ 根拠を示しながら筋道立てて説明する（論理的思考） ・ 探究を通してわかったことや自分の考えをまとめる（要約・統合） ・ 相手や目的に応じてわかりやすく、効果的に伝える方法を考える（伝達方法の選択） ・ 伝えたい内容に合わせて表現方法（言葉づかい、デザイン等）を工夫する（表現工夫・創造性）	社会：調べた内容を模造紙にまとめ、壁新聞を作成する 国語：環境問題についての意見文を書く 理科：実験結果をスライド・レポート等にまとめて発表する 外国語：スライド等にまとめてスピーチで発表する 技術・家庭科：レポート・ポスター・ウェブページなどで表現する 図画工作・美術・音楽：探究したテーマを作品で表現する
各ステップで(必要に応じ) ☆ 振り返り・評価・改善	・ 他者との途中段階を交流し、相互にブラッシュアップする（調整力・改善・成長志向） ・ 自身の探究サイクル全体や各ステップについて、客観的に振り返る（振り返り） ・ 設定した課題に対してどの程度解決できたか自己評価する（課題達成度・評価） ・ 探究を通して、どのような知識やスキル、考え方が身についたか自覚する（自己理解・メタ認知） ・ 探究活動における自分の役割や他者との関わりについて考える（役割認識・他者理解） ・ 今回の学びを今後の学習や生活にどう生かすか考える（学びの活用・次への展望）	全教科：途中段階で発表を聞き合い、互いに工夫点を取り入れて改善に生かす 算数・数学：問題が解けなかった理由を振り返り、考え方のどこに課題があったのか自己評価する 国語：作文の推敲過程を振り返り、工夫した点や難しかった点を評価する 総合：グループでの探究活動を振り返り、活動の役割や貢献度、他者との関わりについて考え、評価する 体育・音楽：技能の習得度を自己評価し、今後の課題や次回の計画を立てる 特別活動：委員会活動での自分の役割や貢献を振り返り、自己評価する

※ここで示している見方・考え方等はあくまで例であると同時に、漏れなく重なりなく列挙するものではなく、お互いに関わり合うものです。

課題設定 「問い」の立て方 ～よりよい学びのスタート!～



どうして「問い」を立てるの？

○疑問と問いのちがい

疑問…頭の中にわいた“ふしぎ”や“わからないこと”

質問…誰かに答えを聞いてすぐに解決したいこと

問い…疑問や質問を出発点にして、「もっと深く知りたい」

「自分で調べ考えたい」と広がっていくもの（探究の起点!）



○問いで広がる学び

同じテーマでも、人によって立てる問いがちがう。

いろんな問いが集まると、多様な視点で協力して学ぶことになり、一人ではたどり着けない発見が生まれる。

友だちや先生、地域の人と一緒に考えると、学びはより豊かに。

☆「問い」はただの“わからない”を超えて、“みんなで考え、未来をつくる学び（コレボレーション&イノベーション）”の出発点になる!!



よい問いってどんな問い？

よい問いの3つの視点・コツ

①大事か？

— 自分やみんなの生活・学び・社会に関わりがあり未来につながる
(例：これから…？もし〇〇がなかったら？等と考える)

②できそうか？

— 自分たちの力で調べたり考えたりして、答えや手がかりを見つけられる (例：大きい問い→身近な問いへ変換してみる)

③続けて考えられるか？

— すぐに終わらず、いろんな考え方や見方で深められる
(例：立場や視点を変えて考える)

課題設定 で働かせる主な『見方・考え方』

- ・疑問や関心を見だし、探究したい問いを立てる（問題発見・課題設定）
- ・課題の背景や重要性を考え、探究する価値を判断する（分析・判断）
- ・探究の全体像を捉え、計画を立てる（見通し・計画）



「問い」の立て方3ステップ

① 気づく（問いのタネを見つける）

日頃の疑問や小さな気づきをそのまま出発点に！以下の視点をヒントに！

- 疑問・不思議：「なぜ？」「どうして？」
- 理解できない：「よくわからない」「どういうこと？」
- もやもや・違和感：「なんだか変」「もやもやする」
- 興味・関心：「もっと調べたい」「考えたい」
- 感動・共感：「すごい！」「感動した！」

→ 付箋やノートに書き出して可視化すると、後から交流や整理がしやすいね！

② 広げる・深める（問いを育てる）

気づきを多面的・多角的に広げ、仮説や理由を考えて深める。

広げる：仲間と共有して、視点を変えて問いを増やす。

深める：「調べればすぐわかる問い」と「探究にふさわしい問い」を分ける
仮説を立てたり、資料のあたりをつけてみる
立てた問いの理由やきっかけを掘り下げてみる

③ しぼる（探究の問いを決める）

よい問いの3つの視点・コツで、実行可能で意味のある問いを決める。

「問い」の例（教科書バージョン）

- ◎よい問い 「なぜ登場人物はこの行動をとったのだろうか？」
(大事か？＝人物像やテーマ理解につながる／できそうか？＝本文の根拠から考えられる／続けて考えられるか？＝心情・背景・作者の意図など多角的に広がる)
- △「主人公の名前は何か？」
(答えは一瞬で終わる。深める学びにはつながらない。)

「問い」の例（自由テーマ）

- ◎よい問い 「給食の残りを減らすには、わたしたちにどんな工夫ができるだろうか？」
(大事か？→身近で意味がある／できそうか？→自分たちの行動を変えられる／続けて考えられるか？→量、メニュー、配り方などいろんな工夫が考えられる)
- △「今日の給食はおいしかった？」
(その場で答えが出て終わり。持続する学びにはならない。)



インプット

情報収集のコツ

～正確な情報を様々な手段でたくさん集める～

情報収集の基本の流れ

課題設定で見通しを立てたうえで、以下のステップで情報を集めよう！

①情報の手がかりをさがす

→まずは『教科書』が基本！しっかりと内容を確認

②可能な限りいろいろな方法で調べる

→本、インターネット、人、観察、調査、追体験、実験等

③記録をとる

→メモしたり、図・表で整理しながら集めたりします

※次のステップ「整理・分析」の準備なので、情報は簡潔に集めます

▷『整理・分析』のステップへ

※情報収集と整理・分析は場合によっては行ったり来たりします

グラフ・表の読み方のコツ



- ・タイトルを見る → 何についてのデータか、いつのデータか
- ・軸・単位を確認 → 縦軸・横軸は何を表すか、単位は？
- ・グラフの形を見る → 増減や変化が大きい部分は？
- ・読み取れることを書き出す → 数字や言葉で具体的にまとめる
- ・文章と結びつける → グラフ・表などの資料が文章のどの部分と対応しているのかを確認

情報収集で働かせる主な『見方・考え方』

- ・課題解決に必要な情報や資料の種類を考える（情報特定）
- ・可能な限り様々な方法で情報を集める（情報収集・調査）
- ・信頼できる情報源を選んだり、情報の出どころ等を確認したりする（情報源選択・出典）
- ・集めた情報が信頼できるか、偏りがいないか等を判断する（情報評価・批判的思考・ファクトチェック）
- ・必要な情報を正確に読み取り、記録し、整理しながら集める（情報読解・記録）

情報収集の主となるリソース

☆教科書（基本中の基本！短時間で濃い情報収集）

- ・目次、見出し、太字、図表、写真、コラム等を確認し、全体を捉える
- ・グラフや写真から具体的な数字や言葉をメモ
- ・文章と図表・写真をつなげて（関連づけて）理解
- ・気になる情報は本やインターネットで補足



教科書以外の情報収集のリソース

インターネット

- ・検索ワードを工夫（キーワードをしぼる、組み合わせる）
- ・情報の出どころを確認（誰が書いた？いつの情報？根拠は？等）
- ・生成AIも含め、情報の信頼性は必ず確認



図書館の本・資料集

- ・教科書の用語をさらに深める
- ・地図・写真・年表など視覚的な情報を活用
- ・発行年を確認する（古い情報なのか、新しい情報なのか）



人に聞く（先生・友だち・家族・地域の人）

- ・本やネットにない“生の声”が聞ける
- ・質問は「はい・いいえ」で終わらないように工夫を



観察、実験、見学、調査、探索、追体験等

- ・実際に見たり、やってみたり、試したりして確かめる
- ・五感で得られる感覚的な情報も大切な情報のひとつです



よりよい情報収集のコツ（参考になる視点）

- ・メモの工夫：事実と意見を分けて書く、出典も書く
- ・多面的に集める：1つの資料だけで決めつけない
- ・信頼性を確かめる：誰が書いた？いつの情報（発行年月日）？根拠は？



スループット

整理・分析に役立つ思考スキル ～思考を深めるための見方・考え方～

思考フロー



課題設定

なぜ？不思議？もやもや、○○がよくわからない、もっと調べたい・考えたい、感動した...等)



インプット

本、ネット、動画、音声、他者、体験・経験等からの情報収集



スループット

情報の整理、分析
※以下の汎用的な見方・考え方が便利！



アウトプット

話す、書く、表現、創作、行動等

各ステップでは... 振り返り・評価・改善

0 はじめに

1 学び方スキル

2 探究スキル

3 その他スキル

整理・分析で働かせる主な『見方・考え方』

- ・図や表、グラフなどを用いて視覚的に整理する（**視覚化**）
- ・情報の中から共通点や相違点、関係性を見出す（**比較・関連付け**）
- ・根拠をもとに情報を分析し、意味や傾向を読み取る（**分析・解釈**）
- ・批判的な視点で情報を吟味し、多面的・多角的に検討する（**批判的思考・多面的多角的**）
- ・論理的に思考し、仮説を立てたり、検証したり、結論の方向性を見出したりする（**論理的思考・推論・判断**）
- ・集めた情報を、わかりやすく分類・整理する（**分類・整理・要約**）

☆整理・分析は次のステップ（まとめ・表現）のための準備！まずは**自分にとってわかるように整理・分析**しましょう！

☆ジブンキンバツールを使う時は、**目的を持って**（なぜそれを使っているかを考えて）使いましょう！

比較

…比べる



同異点整理：複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。



分類：共通点に注目してグループ分けする



関連付け：複数の対象がどのような関係にあるかを見出したり、ある対象に関係するものを見つけて増やしたりする。



傾向分析：表やグラフ、数値や事例を比べて、共通するパターンや変化の法則等を見つける



分解(⇔統合)

…細かく分ける(⇔まとめる)



順序付け：物事の手順や順序、段階を整理して考える



抽象化：対象の中から大事な要素や法則、原理等を取り出してまとめる



具体化：対象に対しての具体例を挙げるなど下位概念の要素に分けたり、くわしく説明したりする。

構造化：考えを構造的(網構造、層構造等)に整理する



理由付け：対象の理由や原因、根拠を見つけたり予想したりする。



多面的・多角的

…多様な視点で考える



五感：五感(見た目・音・におい・触感・味 等)を通して考える

多視点：多様な立場や役割、観点等を通して考える
(例：当事者・相手・第三者、過去・現在・未来、賛成・反対 等)

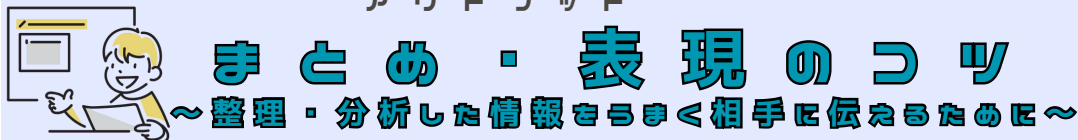
教科の見方・考え方：各教科の視点で捉える、考える



※本資料は小・中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」における『考えるための技法』をもとに、3分類に整理・追記したものです。

※ここで示しているスキルはあくまで例であると同時に、漏れなく重なりなく列挙するものではなく、お互いに関わり合うものです。

アウトプット



その『まとめ・表現』の目的って？

上手に・わかりやすく < 行動・感情の変化・ゆさぶり

まとめや発表のゴールは、「上手に・わかりやすく伝える」だけではありません。学習においては**聞き手に「へえ！」「やってみたい！」「考え直したいな」といった行動や感情の変化（ゆさぶり）を起こす**ことこそ、最も重要な目的です。

なので、**自分の言葉で伝える（書く、表現する）ことが何よりも大切**です。調べたことをそのまま切り貼りしてまとめる、原稿の単なる発表や説明等ではなく「聞き手の次の行動や気持ちを動かすきっかけ」をつくることを意識しましょう。

よりよい『まとめ・表現』のコツ

相手に変化・ゆさぶりを起こすためのコツには、次のようなポイントがあります。これ以外に自分で見つけたコツも書き足してみよう！

- ・ **シンプルに伝える** … キーワードや短い文でまとめ、聞き手に余白を残す。
- ・ **強弱をつける** … 声の大きさやスピード、スライドの構成等にメリハリを持たせる。（例：大事なところは少し声を大きくゆっくり話し、説明部分は普段の声でテンポよく進める、「文字だけのページ」「図や写真中心のページ」を交互にする等
- ・ **問いかけを入れる** … 聞き手が自分ごととして考えられるように質問を入れたり、クイズにしたりする。
- ・ **具体例や体験談** … 実感をもてる話や数字を交えて説得力を高める。
- ・ **聞き手を意識する** … 誰に伝えるのかを想像し、その人に届く言葉を選ぶ。

まとめ・表現で働かせる主な『見方・考え方』

- ・ 最も伝えたいこと（主題）を明確にして表現する（**主題設定**）
- ・ 根拠を示しながら筋道立てて説明する（**論理的思考**）
- ・ 探究を通してわかったことや自分の考えをまとめる（**要約・統合**）
- ・ 相手や目的に応じてわかりやすく、効果的に伝える方法を考える（**伝達方法の選択**）
- ・ 伝えたい内容に合わせて表現方法（言葉づかい、デザイン等）を工夫する（**表現工夫・創造性**）

作成物のチェックリスト

- ① 文字の見やすさ
 - ☐ 大きめの文字（後ろの席からも見えるか）、読みやすいフォントか。
- ② 色とデザイン
 - ☐ 背景と文字の色にメリハリがあり、使う色は2～3色までにしているか。
- ③ 内容の整理
 - ☐ キーワードや短い言葉でまとめ、1枚に詰め込みすぎているか。
- ④ 図や写真の使い方
 - ☐ 説明を助けるために図・写真・表を入れ、見やすく配置しているか。
- ⑤ 誤字・脱字
 - ☐ 漢字・送りがな・数字・単位に間違いがないか。

発表の仕方のチェックリスト

- ① 声の大きさ
 - ☐ 後ろの席まで届く声で、はっきり話しているか。
- ② 話す速さ
 - ☐ 早口にならず、聞きやすい速さで話しているか。
- ③ 視線
 - ☐ 画面や原稿ばかり見ず、聞き手の方を見ているか。
- ④ 姿勢・しぐさ
 - ☐ 背すじを伸ばし、手や体はそわそわ動かさず、必要なときにジェスチャーをわかりやすく使っているか。
- ⑤ 時間配分
 - ☐ 決められた時間内に収めて、最後まで言い切れているか。

→人に見てもらったり、タブレットなどで録画して確認してみてもいいね！

学習の基盤スキル『言語能力』

～学びと社会をつなぐ「思考」「つながり」の架け橋～

言葉の力「言語能力」は、考えを深めたり、友だちと関わったり分かり合ったり、社会で自分の思いを伝えたりするために大切な力です。

読む・書く・話す・聞くといった力をうまく使うことができれば、自分の気持ちや考えをまとめたり、人と気持ちを通わせたり、学んだことを広げて社会とつながったりしやすくなります。以下のスキルをヒントに、国語をはじめ、いろいろな教科で意識してスキルを伸ばしていきましょう。

課題設定

なぜ？不思議！？もやもや、○○がよくわからない、もっと調べたい・考えたい、感動した...等)



言語活動フロー

カテゴリー	スキル	どんなスキル？	チェックリスト
知識 ・ 技能	語彙・文法	言葉の意味、使い方、文法構造など、言語を理解し運用するための基本的知識	☐ 新しく出会った言葉を、意味をたしかめながら正しく使っている ☐ 文法のきまりや言葉の使い方に注意して話したり書いたりしている
	読解力	様々な文章(生成AI含む)や図表等の資料等の構造と論理展開を正しく把握し、文脈に即して情報を正確に理解する技能	☐ 文章や資料の内容を構造的に正しく公平に読み取り、要点をつかんでいる ☐ 指示語や接続語、図表の意味を理解して読んでいる
	書く技能	適切な語彙、構文、段落構成等を用いて文章を書く技能	☐ 文のつながりや段落構成を考えてわかりやすく書いている ☐ 誤字脱字を見直し、丁寧に適切な表記ができています
	話す・聞く技能	発音、聞き取り、問い返し、簡潔な説明など、基礎的な会話運用能力	☐ 相手に伝わるように、声の大きさや言葉を工夫して話している ☐ 相手の話をよく聞き、必要に応じて質問やうなずきをしている
思考力 ・ 判断力 ・ 表現力	論理的構成力	主張・根拠・理由・具体例などを筋道立てて整理し、説得力ある説明や主張を組み立てる力	☐ 主張と理由、具体例を明確に区別して、順序よく筋道立てて説明している ☐ 構成や段落のつながりを考えて文章や話を組み立てている
	批判的吟味力	情報やAIの出力を含む多様なテキストを分析し、その信頼性・妥当性を判断する力	☐ 情報の出どころ（根拠や引用、出典）を確認し、信頼性を自分で判断している ☐ 主張や結論に飛躍や矛盾がないか、データや事実と照らして考えている（妥当性）
	編集力	文章（生成AI含む）を取捨選択（信頼性の判断）・言い換え・再構成して、文脈や目的に合う形に編集し直す力	☐ 読み手に不要な部分を削ったり、言い換えたりしている ☐ 目的や文脈に沿うように、段落や文の順序を入れ替えたり、補足したりして整えている
	表現力	相手や目的に合った構成や言葉づかいで、考えをわかりやすく伝える力	☐ 言葉づかいや順序を工夫し、相手に伝わるように話したり書いたりしている ☐ 相手の反応や状況に合わせて、言いかえたり補足したりしている
学びに向かう力	振り返り・評価	自分の学び方・感情・つまずき等を言葉で振り返り、よりよい学びにつなげる力	☐ 自分の考え方や学び方を言葉でふり振り返り、工夫につなげている ☐ どのように考えたか、自分の思考のプロセスを言葉で説明している
	対話スキル	他者の意見に耳を傾け違いを尊重しながら、対話を通じてお互いの理解を深めていく力	☐ 相手の言葉をよく聞き、言い換えたり問い返したりしながら理解しようとしてる ☐ 「それってこういうこと？」等、相手の意図を確かめる言葉を使っている
	協働スキル	仲間との関係や協力を深めるために、自分の意見・感情を伝えながら場を調整する力	☐ 相手の立場や気持ちに配慮しながら、自分の意見を伝えている ☐ 話し合いの中で、みんなが気持ちよく協力できるような声かけや提案をしている
	発信力	自分の学びや気づきを他者や社会に向けて、わかりやすく伝えようとする力	☐ 自分の考えや学びを、相手に伝わるように整理して話したり書いたりしている ☐ 自分の経験や気づきを、他の人にも伝わるように共有・発信している

※ここで示しているスキルはあくまで例であると同時に、漏れなく重なりなく列挙するものではなく、お互いに関わり合うものです。

【参考】言語能力についての整理メモ（文部科学省） [PISA調査における読解力の定義、特徴等（文部科学省）](#)



自己成長するための読書スキル ～読書家になるための6つのコツ～



読書習慣が身に付けば、一生モノ！ここでは読書スキルとして、6つのコツ（主・対・深の3視点）を紹介します。読書には、他者の考え方やものの見方、経験等を疑似的に体験（学習）できるよさがあります。6つのコツを色々と試しながら、最終的には自分に合う読書術を見つけていき、生き方を豊かにしましょう。この世の中にある数多の“知”の冒険の主人公はアナタです！めざせ伝説の読書家！

☆読書スキルは一人一人合うものが違います。また、本のレベルや自分の状況によっても変わるので、自分で判断し、カスタマイズさせて使い分けることが大切です。

深める 読書スキル

アウトプット



感想を言う・書く（気づき、学び、共感、疑問、考えたこと、成長等）、書評を書く、要約する、図解する、関係図を書く、誰かに紹介する、読書日記を書く、学んだ内容を生活の中で実践してみる、続きを創作する、自分ならこうする・こう書く等を考える…等

主体的な読書スキル

習慣化する



毎日〇分と決めて読む（いきなり長い時間設定は△）、読む時間帯を決める（〇時から読書タイム、歯磨きの後等）、自分のレベルに合った本を読む、好きなジャンルの本を読む、色んな場所に本を置いておく、本屋や図書館へ行ってみる、本を持ち歩く…等

対話的な読書スキル

本と対話する



本に線やメモを書きながら読む（好き、嫌い、疑問、気づき、学び等）、本につっこみを入れたり質問したりしながら読む、批判的に読む（主張の妥当性を見極める、他の本とも比べてみる等）、自分の生活や生き方を本を通して問いかけてみる（本を通して自分の価値観や信念に向き合う）…等

つなげる



知っていることや過去の経験等とつなげながら読む、自分の考えと比較する、学びや気づきをつなげて構造化する（マインドマップ等）、今後につなげる（新たな目標、チャレンジしたいこと等）、他の本との違いを考える、同じ著者の本や似たジャンルの本を読んでみる（広げ読み）…等

調整する



目次から見通しを立てる（読みたい箇所だけ読むでもOK）、緩急つけて読む、隙間時間に読む、毎回「全部読まない」と次の本へいけない」という考えをやめる、目的・関心・レベルに応じて本を選択、レベルが高・低を交互に読む、集中できる環境で読む、ジャンルごとに読み方を変える…等

他者と対話する



本の感想を伝え合う、オススメの本を紹介・教えてもらう、本の内容を誰かに説明する、ビブリオバトル（書評コンテスト）をする、他者の読書感想文や書評を読んでもみる、考察を伝え合う、読書会に参加してみる、本の感想サイト等で自分の感想と比べてみる…等

大阪府情報活用能力ステップシート

0 はじめに

1 学び方スキル

2 探究スキル

3 情活スキル

分類	項目	STEP1 (めやす：小学1・2年生)	STEP1 (めやす：小学3・4年生)	STEP1 (めやす：小学5・6年生)	STEP1 (めやす：中学生)
1 学び スキル	A 課題の設定	身の回りの事象に関する課題を設定できる	地域の事象に関する課題を設定できる	社会の事象に関する課題を設定できる	社会課題に関する課題を設定できる
	B 収集	情報を収集する身近な方法を知り、実施できる	情報を収集する複数の方法を知り、実施できる	調査を設計し、情報を適切に収集・検証できる	統計的な調査も含めて設計し、情報を効果的に収集・検証できる
	C 整理・分析	・絵や図、簡単な表やグラフを用いて情報をまとめることができる ・共通や相違、事柄の順序など、情報と情報の関係を捉えられる ・正しくない情報があることを知る	・正しい情報かどうか確かめようとする ・情報カードを使って、集めた情報の記録や整理ができる ・表やグラフなどを用いて情報を整理できる ・複数の情報から傾向、変化を捉え、共通点や相違点を見いだすことができる ・全体と中心など、情報と情報の関係を捉えられる	・複数の表やグラフを用いて整理できる ・情報信頼できるものか確かめることができる ・得た情報について論理的に考察し、新たな意味を見いだせる ・原因と結果など情報と情報の関係を捉えられる	・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉えられる ・目的に応じて、複数の表やグラフを用いて情報を統計的に整理・分析することができる ・目的に応じて、収集した資料を多面的・多角的に考察し、新たな意味を見いだせる
	D まとめ・表現	・複数の情報から、わかったことをまとめられる ・自分の考えを写真や絵、手書き入力等による文字で、表現できる ・紙版、絵本、絵カード、ペーパーサートなどを使って表現できる	・同一内容について2、3点以上の情報を比較したり、関係付けたりして、新たな意味を見いだせる ・自分の考えや意見を壁新聞やポスター、リーフレット、スライド等で相手に意識して表現できる	・情報を取捨選択し、スライドや文書作成、表計算ソフトなどの複数のソフトで相手に目的に応じて表現できる ・インタビューなどで聞いたことや見学・観察などの体験から得られた情報と、統計資料などから読みとったことを関連づけて報告文を書いたり、ポスターセッションなどをするることができる	・様々な相手や目的に応じて情報をまとめ、WEB等で適切且つ効果的に表現できる
	E 振り返り・改善	情報活用を振り返り、感想をもつことができる	情報活用を振り返り、改善点を見いだせる	情報活用を振り返り、効果を見いだせる	情報活用を振り返り、観点を決めて評価し、改善できる
2 学校図書館 活用スキル	F 本やメディアに親しもうとする態度	・たくさんの本にふれ、いろいろな本があることを知る ・読み聞かせ等を通じて、読書を楽しむ ・読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づく	・ブックトーク等を通じて、さまざまな本にふれ、その良さを知らうとする ・必要な知識や情報を得ることに、読書を活用しようとする	・ビブリオバトル等を通じて、本の面白さや魅力を知り、伝えようとする ・読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づく	・本やメディアを適切に選択し課題を解決しようとする ・自分の考えを広げたり深めたりすることに、読書を生かそうとする
	G 図書館資料を利用する力	・知識(調べたこと)と体験をつなげられる ・何かを知りたいときに、学校司書等、学校図書館に頼る人々に自ら尋ねるなど、関わりをもつことができる ・学校図書館のきまり、本の借り方・返し方を理解して、学校図書館を利用できる	・考えに対する理由や事例(調べたこと)をつなげられる ・学校図書館にある本の配架や分類の仕方を理解して、学校図書館を利用できる	・さまざまな資料、データから読みとった複数の情報をともに、自分で考えを構築できる ・日本十進分類法(NDC)のしくみを理解して、学校図書館を利用できる	・考えの根拠として、さまざまな資料、データから読みとった複数の情報を活用し、自分の意見を表現できる ・レファレンスサービスの活用方法について理解して、学校図書館を利用できる
	H メディアを活用する力	・自然科学の本、図鑑の使い方がわかる ・抜き書きをしたり、絵や文などを用いたりして、調べたことをまとめる方法がわかる	・百科事典、国語辞典、漢字辞典、地図、地域資料などの使い方がわかる ・本の目次や索引の使い方を理解し、さまざまな教科の学習に生かすことができる ・調べたことや自分の考えをまとめるとき、著作物の引用や出典について明示することができる	・年鑑、新聞、雑誌などの使い方がわかる ・参考にした資料について、参考文献リスト等を作成することができる	・参考図書などの使い方がわかる ・目的意識や他者意識をもって工夫して情報を発信したり、フィードバックをもらって改善したりすることができる ・目的に応じて必要な学校図書館メディアを複数選択し、比較検討することができる
	I 公共図書館等を活用する力	公共図書館の利用方法を知り、利用できる	各種施設(公共図書館、博物館・資料館)の特徴を知り、どこへ行けばどんな資料が得られるかを理解することができる	目的に応じて、各種施設(公共図書館、博物館、資料館)の資料等を利用することができる	自ら調べたいことや知りたいたことを解決するために各種施設(公共図書館、博物館、資料館)を利用し、課題解決のために活用することができる
3 ICTの 基本的操作 スキル	J 入力	起動や終了、ログイン・ログアウト、写真撮影、文字のフリック入力又は手書き文字自動変換機能などの基本操作ができる	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(8文字程度/1分間)	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(16文字程度/1分間)	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(25文字程度/1分間)
	K アプリケーション等の使用・操作	標準仕様のWEBブラウザやカメラ機能など、基礎的なアプリケーションを操作できる	標準仕様の文章作成、表計算、プレゼンテーション系アプリケーション、ノーコードのプログラミングソフトを操作できる	目的に応じて様々なアプリケーションを選択し、操作できる	複数のアプリケーションを関連づけて操作できる
	L 検索	インターネット上の情報を閲覧することができる	キーワード検索ができる	AND、ORなどの論理演算子を用いた検索ができる	目的に応じて適切に検索できる
	M 保存	ファイルの呼び出しや保存ができる	クラウドを用いて、ファイルの検索や共有ができる	クラウドを用いて、ファイルやフォルダの管理ができる	クラウドを用いて、規則性に従ったフォルダをつくり、圧縮やパスワードによる暗号化などを用いた管理ができる
4 情報モラル・ 情報 セキュリティ	N 情報の取り扱いに関する理解	人の作った作品や情報を大切にすることや、その情報をむやみに他者に伝えてはいないことを理解できる	・自他の情報を発信、やり取りする場合の責任を理解できる ・他人が制作した情報を利用する際はURL等を含めた引用を明記する必要があることを知る ・パスワードを人に教えないなど、情報を守るための基本的な方法を知る	・著作権等の情報に関する権利と重要性について理解できる ・セキュリティソフトやフィルタリングを適用させるなど、情報を守るための手段や方法を知り、使用できる	発信した情報等について情報社会に及ぼす影響を理解できる ・セキュリティソフトやフィルタリングなど、情報セキュリティ確保のための対策を自ら確認し、実施できる
	O 情報セキュリティに関する理解	情報機器を使用する際の基本的なルールに基づき正しく使用できる	・自他の個人情報を教えず、不審なサイトにアクセスしたり、不審なアプリケーションをダウンロードしたりすると危険があることをわかったうえで、インターネットを利用できる ・インターネット上にある正しくないものを見極めようとする ・SNSの便利さと危険性について知る	・生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点がある ・よい悪いを区別するための生成AIとの対話の方法がわかる ・目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる	・生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点がある ・よい悪いを区別するための生成AIとの対話の方法がわかる ・目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる
	P 情報モラルなどに配慮しながら情報を活用する力	・パスワードやIDを自分で適切に管理・使用できる ・ルールやマナーを守り、クラウドやインターネットの情報を閲覧できる ・インターネット上に正しくないものと理解できる	・自他の個人情報を教えず、不審なサイトにアクセスしたり、不審なアプリケーションをダウンロードしたりすると危険があることをわかったうえで、インターネットを利用できる ・インターネット上にある正しくないものを見極めようとする ・SNSの便利さと危険性について知る	・生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点がある ・よい悪いを区別するための生成AIとの対話の方法がわかる ・目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる	・生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点がある ・よい悪いを区別するための生成AIとの対話の方法がわかる ・目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる
	Q 情報を適切に取扱いながら情報社会に参画しようとする態度	・自他の大切さを理解する ・情報や情報技術を使うこととする	・自他の情報の大切さを踏まえ、適切に行動しようとする ・情報や情報技術、生活に生かそうとする	・情報に関する自他の権利があることを踏まえ、適切に行動しようとする ・情報や情報技術、よりよい生活に生かそうとする	・情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする ・社会は互いに法律やマナーを守ることで成り立っていることをふまえて、行動しようとしている ・情報や情報技術、持続可能な社会づくりに生かそうとする
5 プログラ ミング	R 問題解決の手順を考える力	手順を順序立てて説明できる	手順を図解し、説明できる	フローチャートなどにより表現できる	アクティビティ図などにより表現できる
	S プログラミング的思考	コンピュータには明確な手順を命令する必要があることに気づく	意図した簡単な動作を実現するために、順序を考えたり、くりかえしたりする命令の組み合わせを考えることができる	意図した複雑な動作を実現するために、条件によって動きを変えたりする命令の組み合わせを考えることができる	生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見いだして課題を設定し、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想したり、処理の流れを図などに表し思考等を通じて解決策を具体化できる
	T 分解	動きはいくつかの小さな動きに分けられることに気づく	取り組みやすいように小さな動きに分解できる	複雑な動きを、取り組みやすいように小さな動きに分解できる	計画・制導、双方向性のあるコンテンツの制作、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングを行うために、必要な動きに分解できる
	U 抽象化	コンピュータに命令するための記号があることに気づく	コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる	目的や意図に合わせて、必要な動きを見出し、コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる	目的や意図に合わせて、必要な動きを見出し、課題解決に必要な機能をプログラミング言語等を用いて表現することができる
	V 組み合わせ	ものごとには順序のある場面があることに気づく	意図した活動を実現するための命令の組み合わせを組み合わせることができる	意図した活動を実現するために、複数の命令を組み合わせたり、効果的な組み合わせを考案することができる	安全・適切なプログラムとなるように、複数の命令を組み合わせたり、他者と協働して粘り強く、より効果的なプログラムとなるよう評価、改善及び修正を行うことができる

探究サイクルの中のICT活用 こんな良いことがあるよ！

探究サイクル×ICT

①課題設定（問いを立てる）

ICT活用で...

多様な課題に出会うことができる

データ等で課題を明確化し、課題解決の見通しを鮮明にできる

- 例
- ・インターネットやニュースサイトを見て、いまの社会（日本、世界）や身近な生活にある問題を見つけられる。
 - ・アンケートや意見収集アプリで友だちや地域の人々の考えを集め、問いをはっきりさせられる。

②情報収集

ICT活用で...

多種多様な情報を、高速に、時間や空間を超えて
収集・蓄積できる

- 例
- ・インターネット検索で、たくさんの情報をすばやく調べられる。
 - ・電子図書館やデジタル教科書を使って、場所や時間に関係なく資料を手に入れられる。
 - ・動画やインタビュー記録を見て、いろいろな人の意見や体験を知ることができる。

③整理・分析

ICT活用で...

多様で大量で複雑な情報の整理や、整理した情報の加工・分析が容易に

- 例
- ・表やグラフづくりアプリ（Excel、Numbers等）で集めたデータをわかりやすく整理でき、分析もしやすくなる。
 - ・ふせんアプリ（PowerPoint、Whiteboard等）で情報をグループに分けたり、つながりを考えたりできる。

※その他、AIを使って要約や整理を支援してもらうなども考えられます。（正しさの判断は必須です。）

④まとめ・表現

ICT活用で...

豊かな表現を短時間で作成し、広く発信したり、自らの学びを振り返ったりできる

- 例
- ・プレゼンアプリ（PowerPoint、Keynote等）で、見やすいスライドやポスターを作れる。（一度作ると、他にも活用できるなど、再現性も高い）
 - ・動画や音声アプリで、発表を工夫したり様々な方法で表現できる。
 - ・学習記録アプリ（Excel、OneNote、Numbers、カレンダー等）やWebサイトにまとめて、友だちや先生に共有したり、自分の学びをふり返ったりできる。

誰と、どんな形態で学ぶ？

～目的をもって誰と学ぶかを選ぶと、もっと学びが楽しくなる！～

学習形態を選ぶ

◆ 個人で学ぶ

→じっくり考え、自分に向き合う時間。
考えをまとめ、自分の力にしよう！

◆ ペアで学ぶ

→ 少人数で意見交換。すぐ行動でき、
相手の考えも聞きやすい！

◆ グループで学ぶ

→ いろんな考えを出し合い、みんなで
まとめる。協力する力も育つ！

誰と学ぶかを選ぶ



学び終わったら振り返りも

「今日の学習のしかた、どうだった？」
「もっとよい方法はあった？」
「次はどんな学び方をしてみたい？」

選び方のポイント！（選んだ理由は言えますか？）

- ☑ 「今」の課題や目的に合う学び方を選ぼう！途中で変わってもOK！
- ☑ 自分にとって「今」、どんな学びが必要かを考えよう！
- ☑ いつも同じ人・同じやり方では、もったいない！
- ☑ 新しい相手や方法にもチャレンジしてみよう！



対話するスキル

～ちがいを大事にし、みんなでよりよい結論をつくる話し合い～

対話とは？

－相手を尊重し、“理解したい”がスタート！－

対話とは、自分と相手の考えを出し合い、聞き合いながら、よりよい考えや答えをみんなで作っていくことです。

ゲームのように「勝ち負け」を決めるものではありません。おたがいのちがいを尊重しあうことで、新しいアイデアや考えが生まれます。

対話を重ねると…

- ・相手の話をしっかり聞く力
- ・自分の考えをわかりやすく伝える力
- ・みんなで協力して解決する力 等

が少しずつ育っていきます。

これらの力は、学校の学びや生活だけでなく、将来、社会で仕事をしたり、人と協力して何かをつくりあげたりするときにも大切な力になります。

対話の進め方（例）

①計画を立てる

例：「話し合う目的は〇〇だね。」「決め方は…」「話し合う順番は…」「役割分担は…」等

②計画にそって話し合いを円滑に進める

例：「〇〇についてはみんな納得かな？」「次は〇〇を決めよう。」「話を元に戻さない？」等

③整理してまとめる

例：「〇〇と関連づけると…」「〇〇という点で比べると…」「みんなの意見をまとめると…」等

みんなで“決める方法”を確認しよう！

あらかじめ、どんな方法で決めるのかをみんなで確認しておく、スムーズに話し合うことができます。決める方法には以下のような方法があります。

①多数決

みんなの意見を“賛成の数”で決める方法で、短時間で決められます。

次の条件がそろっているときに使うようにしましょう。

- ・誰かが大きな不利益を受けない
- ・「多数決で決めること」にみんなが納得している

②全員一致（合意形成）

一人ひとりの意見を調整しながら、みんなが納得できる案を見つける方法。

時間はかかりますが、より多くの人が満足できる方法です。



0 はじめに

1 学び方スキル

2 探究スキル

3 対話スキル

対話スキル

他者の意見に耳を傾け違いを尊重しながら、対話を通じてお互いの理解を深めていく力

対話の3つの大前提（対話ルール）

この3つのルールは、対話の成功に必要な土台です。

- ①敬意・気配り：お互いの人格と意見を尊重する気持ちが最も大切です。
- ②傾聴・共感：相手の話に耳を傾け、その気持ちを理解しようと努めましょう。
（話はささげらずに最後まで聞く、相手の立場に立って聞く、うなずきながら聞く、考えや理由等をたずねる等）
- ③全員参加：誰もが安心して発言できる場をつくりましょう。（パスもOK）

対話をもっとうまく進めるための5つのコツ

上記のルールを守った上で、対話をよりスムーズで効果的なものにするための具体的なコツです。これ以外に自分で見つけたコツも書き足してみよう！

①目的、時間、条件を確認する

話し始める前に、「何のために話すのか」「いつまでに終わらせるのか」等をはっきりさせ、全員で共有しましょう。

②役割を分担する

進行役（ファシリテーター）、記録係（書記）、時間係（タイムキーパー）など、役割を決めるとスムーズに進みます。

③問いかけを工夫する

「はい/いいえ」で答えられないような質問（例：「どうすればもっと良くなるかな？」）を通して、より深い考えを引き出し、たがいの考えをくわしく知れます。

④意見を見える化する

話し合ったことをホワイトボードやふせんに書き出し、みんなで共有すると、考えが整理され、新しいアイデアが生まれやすくなります。

⑤「もし」で自由に発想してみる

「もし〇〇ができたとしたら？」と仮定の質問をすることで、現実の条件を一度忘れ、自由な発想を促せます。

発見

たのしみ

探究日和



子どものころ、私は「なぜ?」「どうして?」の連続でした。夏休みに昆虫採集をしては「どうしたら元気に長く育てられるんだろう?」と考え、空を見上げて「なぜ雨は降るの?」と親と語り合う。気づけば、遊びも勉強も、問いかけから始まる小さな冒険でした。気になったことを調べたり、試したり、うまくいかなくてまたやり直したり。正解を当てるためではなく、ただ夢中になって確かめてみる——それが、私にとって一番の学びだったのです。



ある時はふと、「勉強って、何のためにやっているんだろう?」と自分に問いかけたこともあります。テストでいい点をとるため? 将来の仕事のため? でも本当は、「知らなかったことがわかるっておもしろい!」とか「できなかったことができるようになるってうれしい!」という体験そのものが、勉強の本当のごほうびだったのだと、あとで気づきました。

この「探究のスキルブック」には、そんな小さな冒険を後押しするためのヒントをめいいっぱいのせました。勉強がうまくいわずに悩んでいる人も、もっと自分の学びを広げたい、深めたいと感じている人も、きっと何か手がかりになると思います。

冒険の主役は、この本でも先生でもなく、親でもなく、あなた自身です。あなたの問いや発見が、ページに新しい物語をきざんできます。ここに書かれたスキルを手がかりに、ノートや心の中に、自分だけの「探究のスキルブック」を増やしていきましょう。

学びは、未来につながる冒険です。ドキドキしたり、つまずいたり、でも一歩進むたびに世界は広がっていく! 今日という日が、「探究日和」になりますように。

(文…教育センター 担当主任)

INFORMATION

スキルブックデジタル版

＼詳細はコチラから／

スキルブックのデジタル版は、守口市のみなさんのiPadのL-Gateにも配信しています。
また、守口市教育センターのホームページにも掲載していますので、そちらでもぜひ!



発行：守口市教育センター（令和7年11月）

所在地：〒570-8666 守口市京阪本通2丁目5-5 TEL：06-6997-0703

WEB：<https://www.city.moriguchi.osaka.jp/kakukanoannai/moriguchicitykyoikucenter/index.html>

・本教材の著作権は、守口市教育センターが保有しています。
・本教材は、児童・生徒・保護者への啓発・教育を目的として、無償で提供する場合に限り、自由に利用することができます。
それ以外での2次利用はおやめください。